

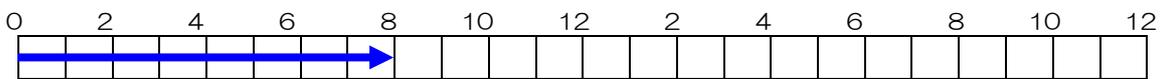
とけい

量と測定領域ということ意識して

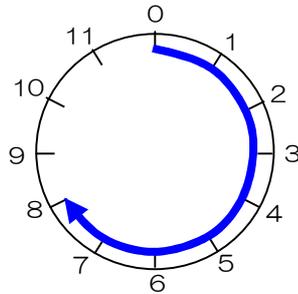
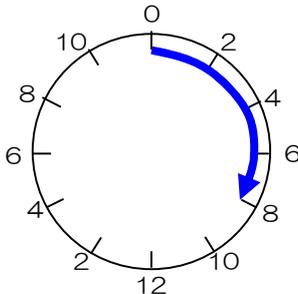


低学年における「時計」の学習は時間をよむことに重きが置かれ、量を数値化していく「量と測定」領域のねらいが忘れられているように感じる。以下のように、測定の意識をつなぎ、数理を高める指導や、デジタル時計との関連も必要だ。

- 1 「長さ」からのつなぎ・・・「時間のものさしがあれば便利だ」

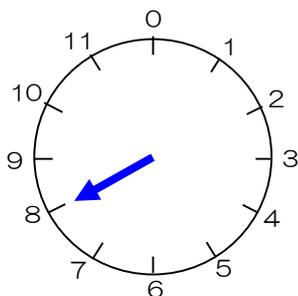
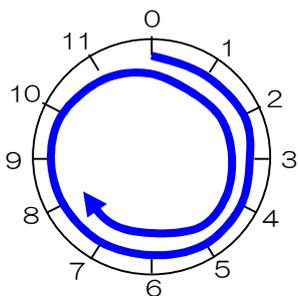


- 2 時間の連続性・・・「時間は繰り返されるから、丸いものさしが便利だ」



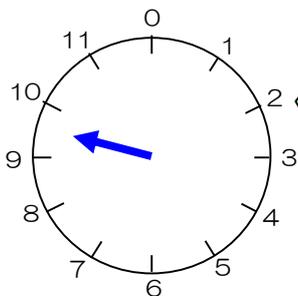
「12までの目盛りが2回繰り返されるのなら、数字は1回だけのものさしにすれば、さらに便利だ」

- 3 測定の単純化・・・「煩雑な矢印ではなく、その数(時間)だけをさせれば便利だ」

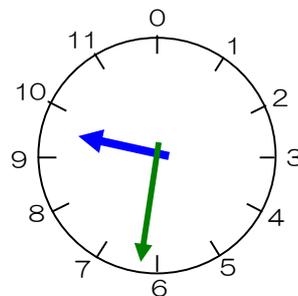


この、分刻みの目盛りが無く、短針だけの時計で、時刻のイメージ化を図ることが効果的。
短針を回転させながら、8時、9時・・・と。

- 4 測定の合理性・・・「〇時△分と、はっきり分ければ便利だ」



9時と10時の間の時間だ。9時半かな？ 9時半を過ぎてるかな？



2つ目の針をつけるのははっきりするよ。6と7の間の目盛りも必要。

- 5 測定の正確性・・・「2つ目の針は、何分かを正確に見る必要があるため、目盛りの近くまで長くすることが必要だ」 *短針と長針の役割を明確になる。